

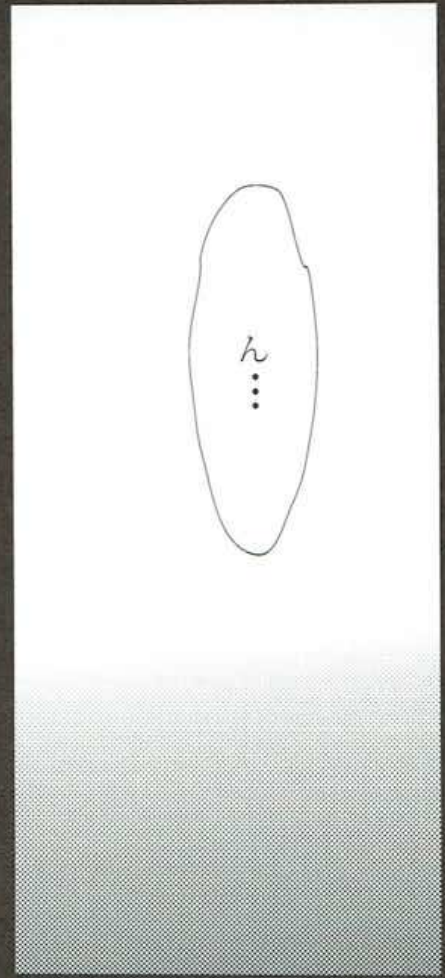
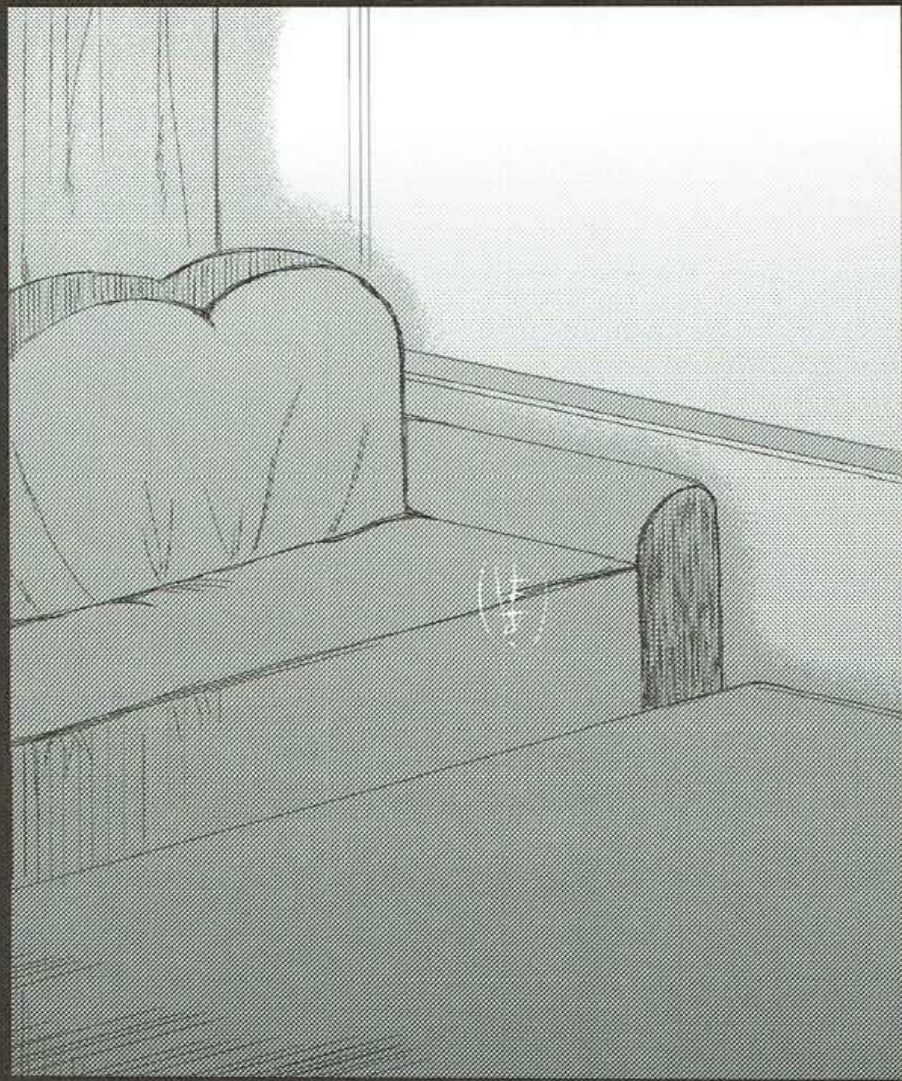
俺の助手のデレレが

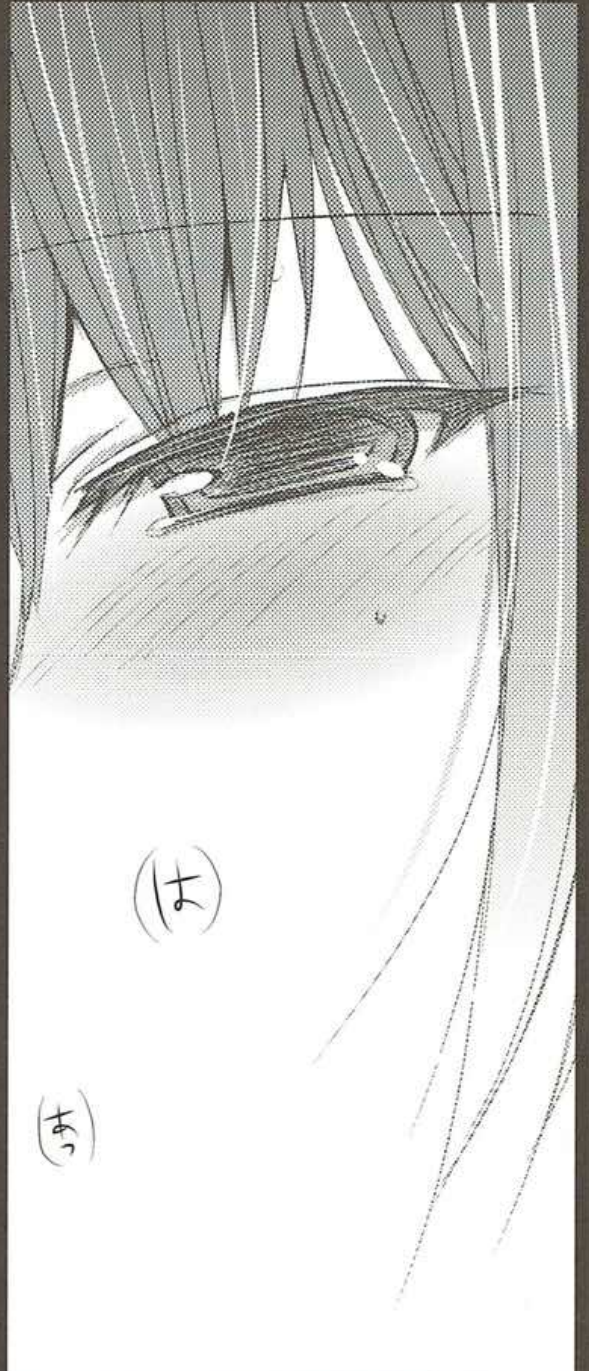
有頂天でどまるといふ事を知らない

NO.0 E-COMON

18













モウアッ!!

アッ!!

何故か起きたらこんな事に...  
き、機関の陰謀か...

徹夜明けでソファの陰で  
眠っていたはずだが...

今、酷い自演を見た...

18禁



...また、やっちゃった...

一部始終  
見ていた人

おは...おは...

ビキ

ビキ



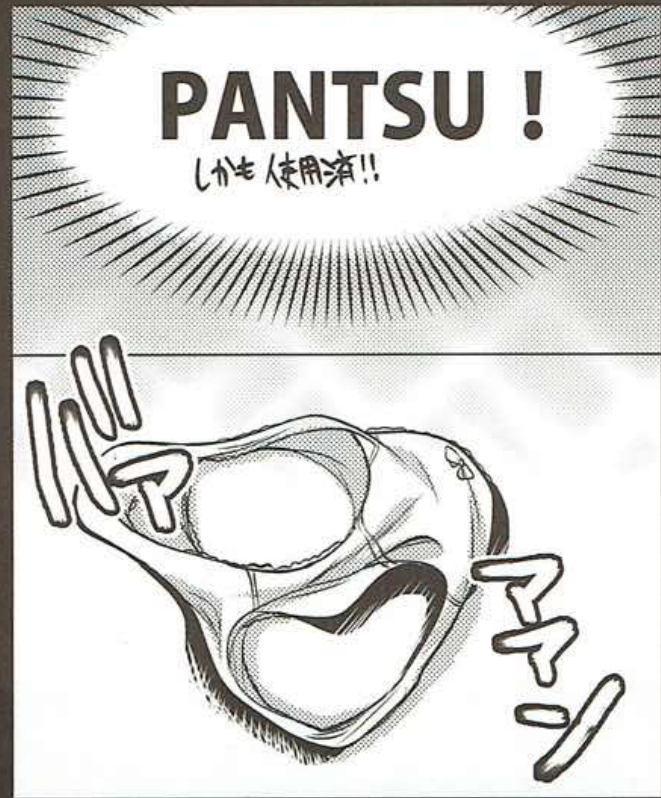
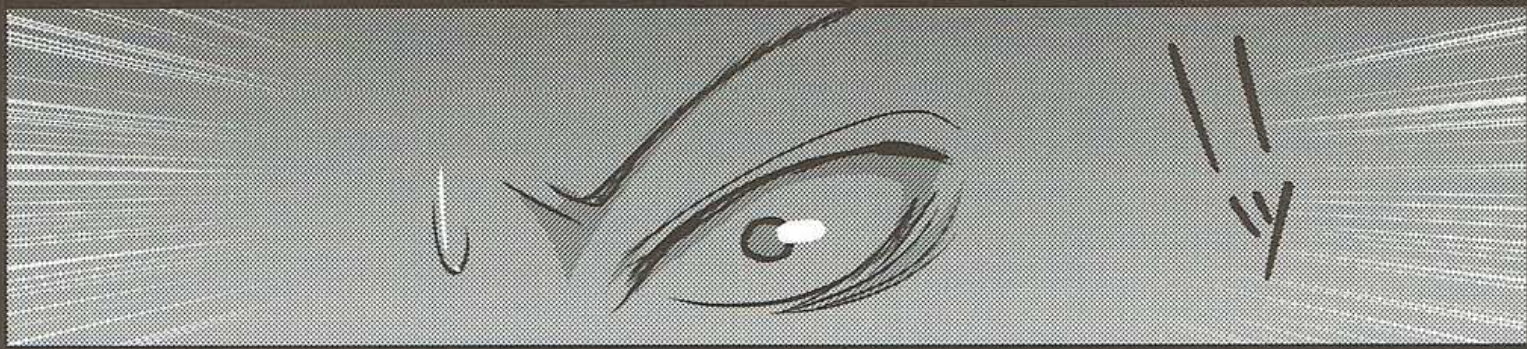
そして明らかに  
出ていくタイミングを  
逃してしまった...

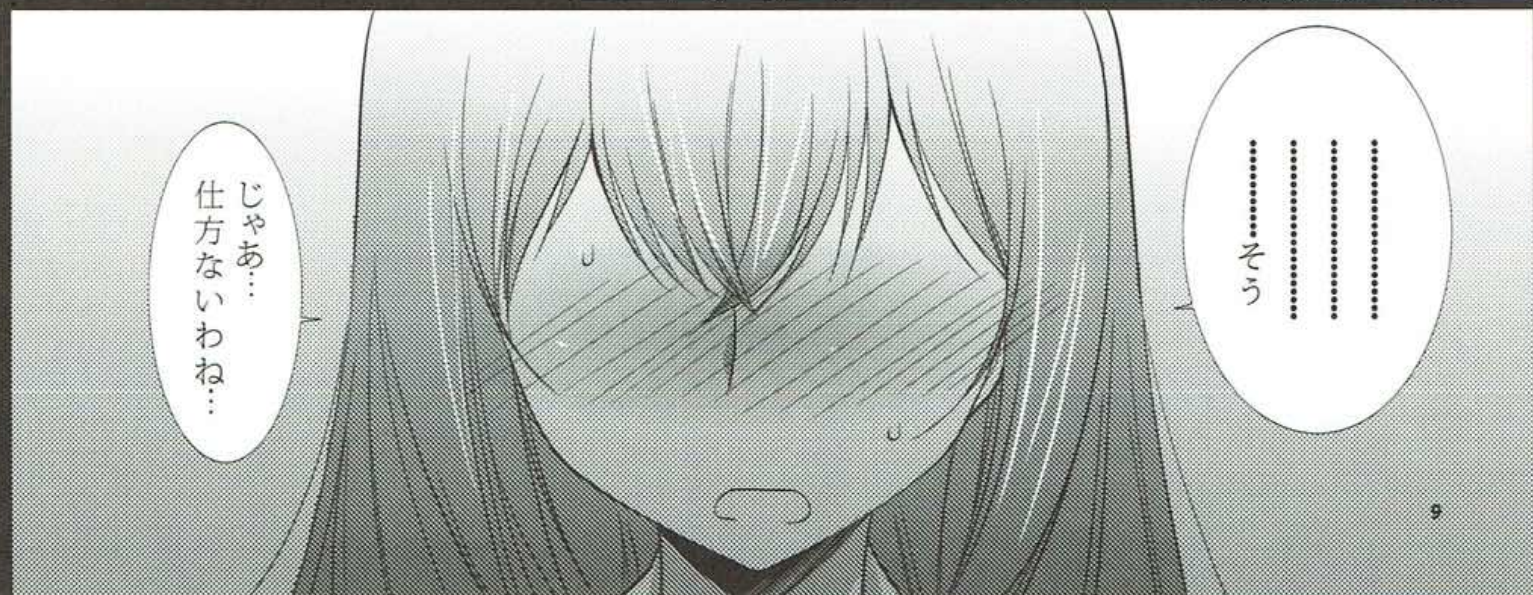
今出ていくときと  
鬼●とか●作とか  
そういう展開になる  
世界線に収束する...!!

そして...最後には  
ヤンデレルトに入  
るに決まってる...!!

エロゲ腦的な考え

過去の自分の行動を反省して  
より慎重になつてほしい  
エロゲ









って何だ  
その道具類は？

あッ貴様  
それで俺の記憶を  
いじる気か!?  
死ぬからな?  
やめろよ!



お、おい助手よ

お、俺はそんな  
気にしては...



しかし  
熱すぎじゃね?  
常考



うるさい  
その騒音で聞いて  
記憶を書き換えてやるッ

アホか  
死ぬぞ！俺が！



も、  
全くまゆ氏は  
さつきからそればっか...

れ?



まゆしいは早く  
からあげが  
食べたいのです

シューシューからあげ

...でも、やっとラボに  
着きましたね。

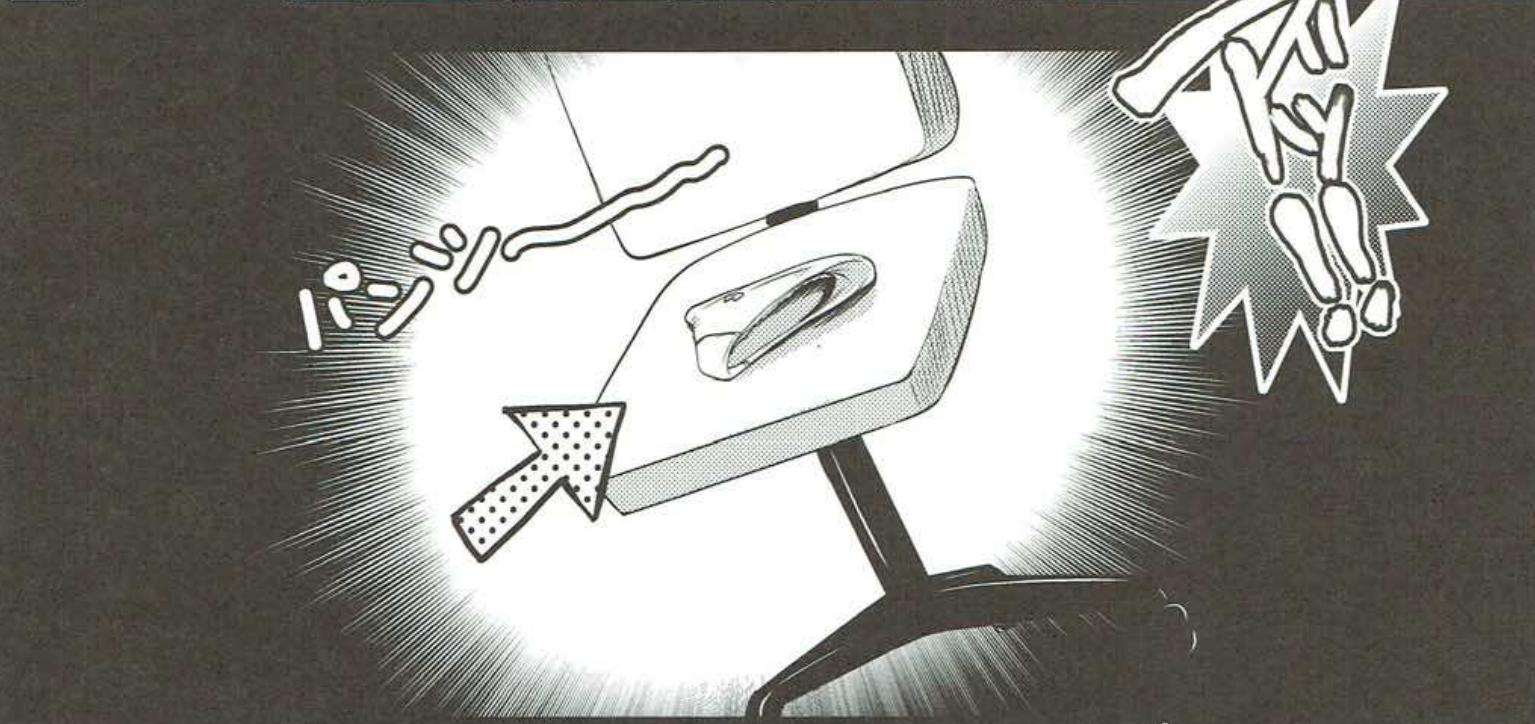


ダルか?

こら早く  
離れ...

!

かきん  
かきん  
かきん



パン

かきん



来い  
クリステイナ!

かきん

きや...



かきん

かきん

まずい...!  
もうダルが入ってくる...  
履いている暇は  
ない...ッ



か  
ん  
や

あれ  
誰もいない罫？  
物音聞こえたんだけどなあ

ダル君  
はずれだね



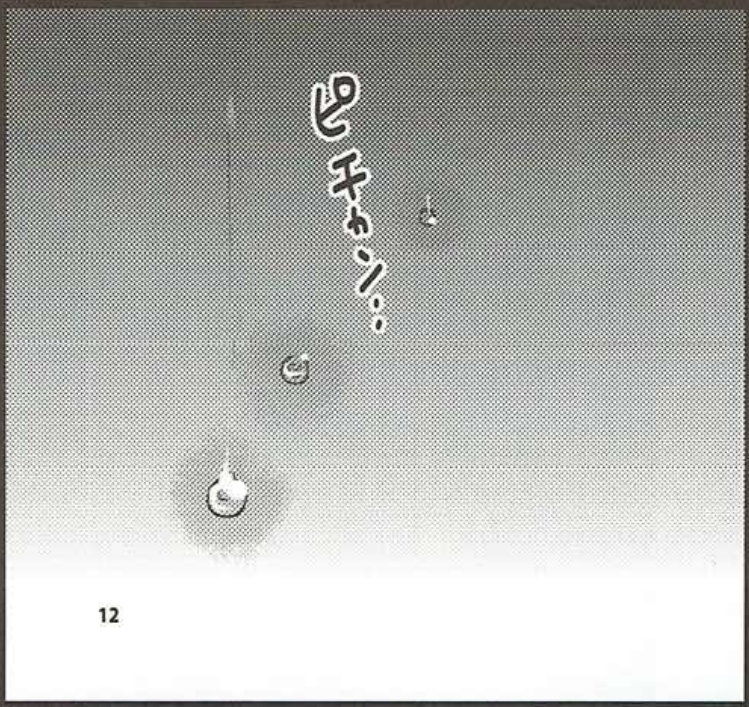
うはw  
まゆ氏厳しいw



つかオカリンも  
牧瀬氏もないし  
これってつまり…

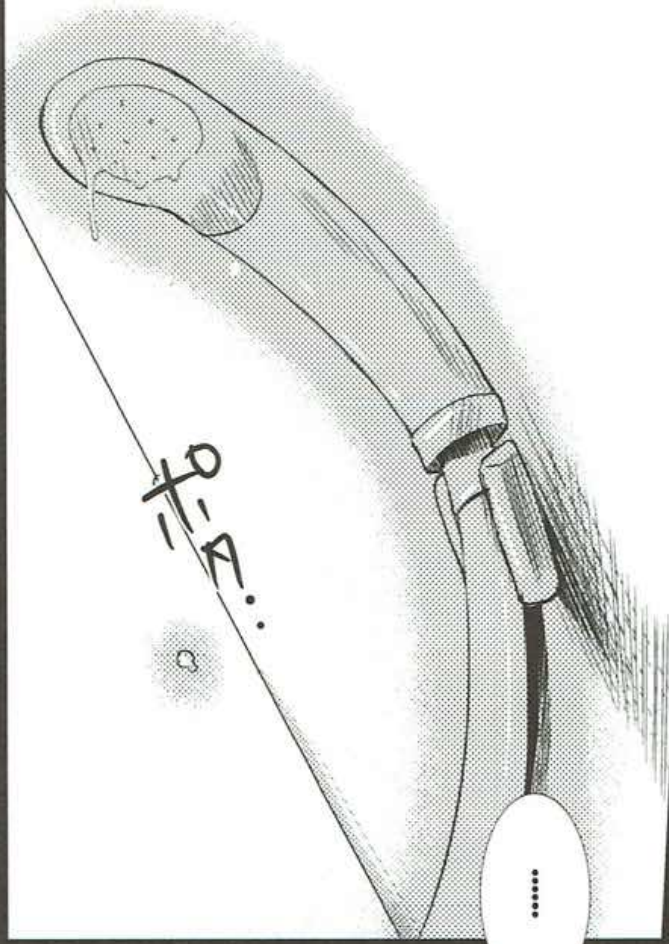
2人で出かけてるって  
パターンじゃね？

リア充爆発しろって  
やつだね



か  
ん  
や

んんん。



んんん。

...



ドキ

ドキ

ドキ

ドキ。



…なんで  
シャワー室に  
逃げ込むのよ？

貴様…そのセリフは  
今の自分の格好を  
見てから言ってもらおうか…

く…っ  
把握した…



…ついさっき  
俺のラボの俺の椅子で  
変なことしてた女に  
そう言われてもな…



こんな狭い所に  
連れ込んで…  
へ、変なこととか  
しないでよね…



……  
だって

あんたって…  
あんまり自分から手  
出してくれないし

椅子に座って  
に、匂いとか嗅いでたら…  
なんか…勢いで…



…しかし  
何であんなところで？  
こんなこと言うのも変だが  
ホテルに帰ってすれば  
いい事ではないか…



あそこで  
しちやったのは…

ここがあんたの部屋で  
あれがあんたの椅子だから…

いつも岡部が  
あそこに座ってるからよ…



…お前  
匂いフェチか？

あは…ねーよ…



…さっきも言った  
でしょ

岡部の椅子だから  
しちやったの…





...

…悪かったよ

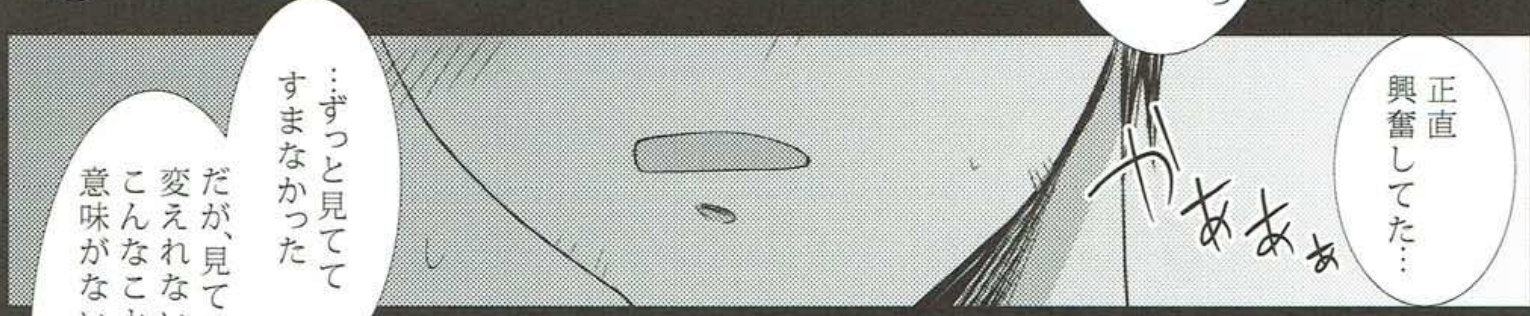
え？



鼻息  
荒いんだが…  
それともうツンデレ  
出来てないからな？

べ、別にあんたのオオチン…  
なんて見たって  
何ともないんだからね  
た、ただ苦しそうだから  
出してあげようって…  
あんたの為じゃ  
ないんだから

く…う



正直  
興奮してた…

…ずっと見てて  
すまなかった

だが、見てしまった過去は  
変えれない…  
こんなことしたって  
意味がないんだ…



…って言ってる  
だろうがっ!!



岡部…

だから…もう  
こんなことはやめて  
大人しく…



くっ  
この...

岡部が声出さなきや  
ばれない！

勝手に私の：  
お、オナニー見た  
罰なんだから！

我慢...しなさいよ

んっ  
っ

んっ  
♡

んっ  
んっ

んっ...

んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ

んっ  
♡

んっ  
んっ  
♡



く…う

つてオイ  
なんでそんなに  
見てるんだっ

やめるッ  
は、恥ずかしいでは  
ないか！

お前…開き直り  
すぎだろ…

…っ



…その顔

次の時のオカズに  
するわ…



で…るッ

…っ



う…





不味いの  
に  
そこ  
まで  
しな  
くても  
良  
か  
ろ  
う  
に...

相  
変  
わ  
ら  
ず...  
苦  
く  
て...  
不  
味  
い...



全  
部...  
飲  
ん  
だ  
の  
か?



不  
味  
い  
け  
ど...

嬉  
し  
い  
の

あ  
ん  
た  
の  
精  
液  
の  
味  
知  
っ  
て  
る  
の...

今  
の  
私  
だ  
け...  
だ  
か  
ら



お  
お  
い



も  
っ  
と...

も  
っ  
と  
知  
り  
た  
い



で  
も...

も  
っ  
と





抑えてくれ...

こ、こ、こ  
こ、声はまずい...  
バレるから...!



は...♡

はし、

ズッ♡

は...♡

は...♡



は



気持ちいい...

岡部の指

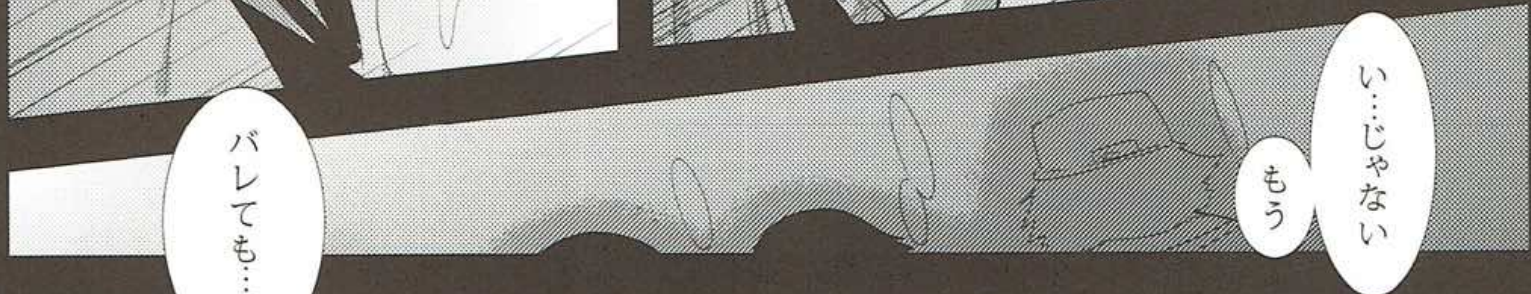
指長くて



……くっ  
音が……



……くっ  
音が……



バレても……う

……う

い……じゃない



もうまゆりにも……  
誰にも……絶対



岡部は……  
私のなんだから……



あげないん  
だから……

……う

…う  
お前という  
やつは…!

お岡部…??

い  
あ  
あ

お  
い  
あ  
あ

お  
い  
あ  
あ

お  
い  
あ  
あ

お  
い  
あ  
あ

い  
…

い  
…

お  
い  
あ  
あ







だがあえて言おう  
それはそもそも  
貴様のせいだッ

こまけえことは..  
いやなんでもない

ま、まったく  
あんたがこんなとこ  
連れこむから..

お前とんどん  
距離詰めて  
来てないか?

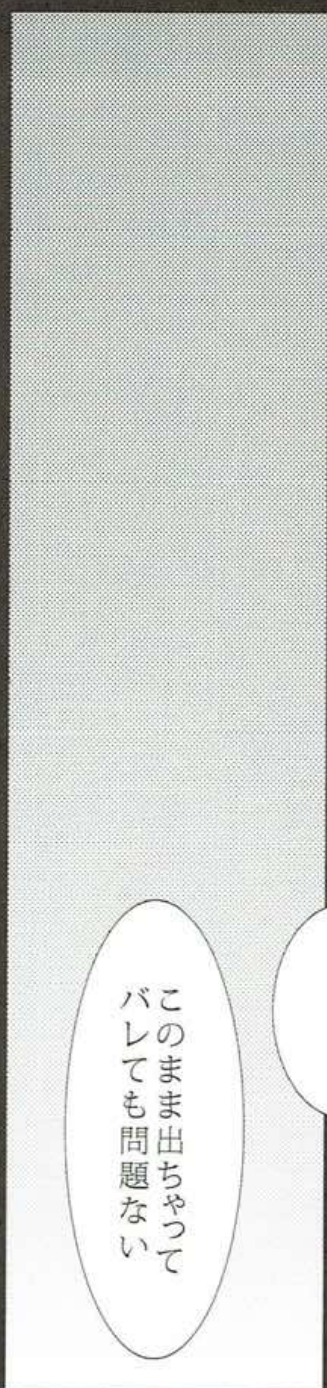
気づかれなかった  
みたいで良かったが..  
..狭いな



だって私

もうあなたの  
ものだもん…

はっし…



このまま出ちゃって  
バレても問題ない

…つか

…



せっかく気付かない  
ふりしてやってんのに  
2回戦って…

いや…  
その通りだ

えっ

Wwww

オカリン  
空気嫁だね

もう帰って  
あげちゃうか…

とくにいして。



…  
デレ期  
著しいな

…// や、やっぱ  
い、今のなしっ！

何言ってるんたろ  
恥ずかしい



←次のページからはすてきなゲストノベル！







「かないでクリスちゃん、ゆいはいクリスちゃんを喜ばせて、笑顔にしてあげたいんだよ」

「りがとつ……」

「やあ、続き……じよつか」

「……うん……」

「まゆりは思わぬふりな視線のまま、ペロリと舌先を出して見せるとそのままワンピースの裾に手をかけ、つくりと捲りあげていった。

「白な肌が健康的な太股が徐々に姿を見せ、清楚な感じのする白い逆三角の下着があらわになる。供はぼさの残るまゆりらしいレースが幾重に折り重なったシルク素材のパンティにしばし目を捕らわれると、供が小さなへそをそしてポリニームのある乳房を全て多ききれないでいる白いブラジャーが露出する。

「固唾を飲んで見守る中、まゆりはブラの下に指先をもぐりこませ、そのまま上にひっくり返すように固り上げる。

「ほど私がこの手で形を操作したまゆりの胸が、その本来の姿をみせる。紅色の綺麗な乳房が自己主張するようにツンと天を見上げていた。

「ゆりはそこで敢えて服を全部脱がず、上胸の頂上部でたくしあげた服を抱きとめるようにしてチラの表情を伺う。

「クリスちゃん、まゆしいのおっぱい、見せつこじよつか」

「そんなこと急に言われても……」

「大丈夫だよ、恥ずかしがらなくても、えい」

「……」

「……無駄に凄いやうな技能を」

「クリスちゃんのおっぱい綺麗だねえ」

「まゆりのに比べたら私のなんて……ちよつと劣等感を抱きそうになる」

「そんなことないよ」

「クリスちゃんのこと……可愛いし……」

「ゆりはそう言いながら私の勃起した両の乳房を親指と人差し指の腹で挟むとしごくように弄び始めた。ゆるゆるな感覚が乳房の先端から恐ろしいスピードで私の脳を中心を穿つ。

「人々にだらしなく開いた唇から微かなあえぎ声を洩らして私はまゆりの頭を抱きしめていた。……ああ……ちよつと……ちよつと……」

「……弱いなだね、クリスちゃんも……」

「まゆりはそのまま両手で私の小ぶりの乳房全体を絞るように掴み、突出した乳房を二つ一片にその口に含んだ。つとりする唾液まみれになったまゆりの舌が乳房の先端から側面乳輪の際を丁寧に舐め上げていく。

「……ええ、ちよつとと棒ジナスでも吸るかのように乳房全体を吸引されたでさえ、敏感に尖った乳房がさらに大化させられる。

「……」

「まゆしいの抱きかた、クリスちゃんの舌でべちゃべちゃに……」

「そのままだなだれたまゆりに押し倒されるように、私は床に仰向けに転がされた。床にまで垂れた私の愛液が粗相でもしたかの様に軽い水たまりになっている場所、まゆりは私の両足の付け根に顔をうすめ、その原因となった箇所は鼻先をあてがった。

「未だに残る恥じらいが防衛本能のように両足に力を込める。だがまゆりは予想外な力でそのさやかな抵抗をねじ伏せ、彼女の前にぐしぐしよになつた下着の状態を晒す派目になる。

「うわあもうすごいことになってるね、クリスちゃん、まゆしいも頑張り甲斐があるよ……」

「……も素直でいい子だねえ、こは」

「まゆりへの反論も空しく、まゆりの手で私の秘所を隠した最後の薄い理性の城壁が取り払われる。べしやりと水音を含んで地面に脱がされた下着を細めた視線の端で確認すると、恥ずかしさでどうにかなつてしまっている。

「だがまゆりの責めはすぐにそんな瞬間の恥じらいすらも地平の彼方に吹き飛ばしてしまふほどの快楽をもたすことになる。

「まゆりの指が私の無防備になったクレパスの中心にあてがわれ、すりすりりと亀裂をなぞっていく。襲の震えが自分で分る程に意識が下半身に集中している。

「まゆりの指の指紋の溝の一本一本が擦れていくのがわかるほどに、私の秘所は敏感かつクリアに刺激を刻んでいく。

「やがてしつとりと濡れた彼女の指が秘境の高嶺に実る果実のような肉芽を見つけ出す。半分ほど薄皮にうすもれたソレを指の腹でそつと捲つていく。

「クリスちゃんも……気持ちいいかなあ」

「……はあ……」

「声にならない声で身体を中心……いや、もしかするとそれはクリトリスと呼ばれる性器からの悲鳴だったのかも知れない。

「外気に当てられたクリトリスがヒリヒリと感じたことのない刺激で私を責める。

「まゆり、まゆり……こわい……そんなにしたら……こわいよ」

「……あ……痛くなかった？」

「……あ……痛くなかったかあ」

「……あ……痛くなかったかあ」

「……あ……痛くなかったかあ」

「……あ……痛くなかったかあ」

「……あ……痛くなかったかあ」

「……あ……痛くなかったかあ」

「……あ……痛くなかったかあ」

「……あ……痛くなかったかあ」

「クリスちゃん…まゆしいもえも…んあつー！  
わたしも…ダメっ…イっくっイっくっうううう」

「空白。真つ白になった世界。」

「そこには何もなく全てがあった。」

「私の求めたものが。」

「繋がりが。」

「一人では到底知ることのなかった世界が。」

「まゆりに会えて良かった。」

「私の意識はそんな至福の瞬間で不意に途切れた。」



「オカリン、オカリン。あのさあ最近気になることがあるんだよね」

「大柄なダルが身を屈め、小声で俺に囁いてくる。」

「なんだ、お前の脳内嫁の設定の話なぞ聞く耳はないぞ」

「そんなのわざわざオカリンに言わねえしよ」

「あれあれ、最近のまゆ氏と牧瀬氏のスキンシップの謎に迫る」

「ダルが視線で促すとその先にはソファで隣同士になって座るクリステイナとまゆりの姿だった。」

「もつとも、普通に座っているのは紅莉栖だけで、当のまゆりは彼女の膝にじやれるようにして頭を寄せている。」

「まるで縁側に座ったお婆ちゃんが猫でも愛でているような光景だ…」

「いわずもがな、そこには何やらアブノーマルかつ神秘的で、背徳的で、よくあるエロゲ設定の香りが漂っている。」

「…うほ。」

「あの二人いつからあんなに爛れた関係だったか、オカリンは何か知ってる？」

「ほお、ついにお前の性欲の対象が脱二次元から三次元への進化を遂げたという報告か？」

「あの二人が一体なんだというのだ、ダルよ。」

「いつもと変わらず中睦まじいきやうきやうふふな女子の姿ではないか」

「さすがオカリン、てめえどのエロ面下げてスカしたこと言ってるんじやねえよ、そこにシビれる！あこがれるウー！」

「ええい、この世界はそういつた欺瞞と偏見に満ち溢れた不完全な失楽園なのだ！」

「敢えてここに宣言しよう…この狂気のマッドサイエンティスト、鳳凰院凶真が全ての不当な差別に」

「終始を打つべく！」

「オカリン、お約束台詞乙…」

「振りあげた拳が行き場を失くし、宙空に震える。」

「そんな俺の空しさを知ってか知らずか、視線の先で」

「二人だけの不完全にして完成された世界を築しむ紅莉栖達をぼんやりと眺めうなだれた」

「…どうしてこうなった」

「ねえねえクリスちゃん…」

「なあに、まゆり？」

「えへっただ呼んだだけ」

「なにそれ意味わかんない…くすっ」

「えつとねえいまさら思いたしたことなだけど…クリスちゃんとクリスちゃん、って似てるよねえ」

「…私も今更なだけど、冒険的なネタでオチを締めようなんて…やっぱりどこか患ってるんだね」

「この世界線の創造主は」

「ねえねえあそこにある変な数字の機械ってなんだろうね」

「5・963…うて、なんだろうねえ」

「ニキシト管を使った妙にレトロな置き物が目に付く」

「また岡部と橋田が未来ガジェットの新作でも作ったんだろうか」

「…まあこの際それはどうでもいい」

「今の私はこの世界がとても満ち足りたものを感じているのだから」



トットゥル〜☆  
はじめまして。こんにちは  
重箱の隅を突くかのようなマイナージャンル街道をひた走っている  
サークルにのこやのにの子と申します。

…って書いたけどSteins;Gateアニメ化来ましたね。来てしまいましたね！！  
うちのサークルではもう通産5冊目のシュタゲ本になりますが、  
ドラマCD、コミック、PCゲーム化、アニメ化と、  
ここまで話題に事欠かないゲームになるうとは！  
正直なところ今年の夏は燃料(本家的な意味で)がなくて  
まみしい思いをしてるんだろうなーと思っていたので嬉しい大誤算でした。

ひさしぶりに話題に付いていけるだけついていきたいくらい  
嵌ったゲームなのでお金の続く限り踊らされたいと思いますw  
でも、コミケ物販が買えない参加者のがなしで…  
通販やってくれるよね、やってくれると信じてる…

\*\*\*\*\*

本について。  
アアアァァ甘ったるかったああああああ！！  
みなさん尻ががやくなったり口の中が砂糖の味になったりしませんでしたが。  
私は最後通しで読む際全身トリハダに包まれました。  
ひどい黒歴史を作ってしまった瞬間であった…

さてさて、今回は上にも書いたとおり5冊目のシュタゲ本になりましたが、  
うちのサークル知らない方のためにちょっとご説明を。

うちのサークルでは主にオカリンとクリスティーナの恥ずかしい  
らぶらぶエロ口を扱ってるのですが、(つうかそれしかない)

1冊目「よろず御膳参」でサンクリ46で初めて本を出し、  
2冊目「よろず御膳四」がサンクリ47  
3冊目「よろず御膳五」がcomic1☆4  
4冊目「Steins;Gate再録～よろず御膳 参・四～」が再販希望が  
異常に多かったよろず御膳の参・四を再録した本です。

※ちなみによろず御膳というのはうちのサークルで扱っている、  
1イベント限定の本の名前です。  
内容としては、1冊目が単発のパカエロ口話。  
2、3冊目がSG到達後の続きもののシリアス？らぶらぶ話です。

そして今回はというと、2、3冊目の続きではあるものの  
1冊目のパカエロ口路線をもっかいやりたかったので、  
タイトル通りの割とパカなエロメイン話ですw  
とにかくクリスティーナをエッチにかわやく描こうという目標のもと  
頑張って描きましたので、楽しんでいただける本になってたらいいなー  
紅莉栖の心情としては、3冊目の続きなので  
SG後の記憶を徐々に取り戻して行って  
オカリンと新しい生活を楽しんでいる(妄想)あたりです。  
アメリカ帰国設定は今度やりたい…な…

\*\*\*\*\*

そして！今回ゲストページをな、なんと五ページも頼んでしまいました！  
しかもまゆしい×紅莉栖もの！空気を読まない選択に痺れるあこがれ…ry  
ただでさえ百合好きの私にとってまゆクリというのは至高の萌えジャンルなので  
なにも断る理由がなかったせ！いいものをありがとうでしたー。売げ萌えた。

\*\*\*\*\*

奥付  
誌名: 俺の助手のテレが有頂天で  
とどまる事を知らない  
発行日: 2010 8 15 (C78)  
作者: にの子(にのこや)

さいごに、宣伝？ですが…  
次回のシュタゲ本はおそらく10/11のカオハ・シュタゲオンリーイベント  
「chaos:gate」にて発行予定です。みんな来ようぜ！！

ではでは、長くなってしまいました。またお会いできますればー。  
エル・フサイ・コングルッ！

HP: <http://ninoko.sakura.ne.jp/>  
メール: [ninoko1101@nifty.com](mailto:ninoko1101@nifty.com)  
印刷: マツモトコミックサービス様  
第2版: 8/20

2010 8 にの子

御意見ご感想などありましたら  
HPのweb拍手、メール、ブログのコメ欄など  
ご利用くださいませ！



2010 ninokoya presents

"ore no josyu no **dere** ga utyouten de todomaru koto wo siranai  
Steins;Gate fanbook

